歩～あゆみ～

兵庫県立神戸北高等学校
野球部

2021年（令和3年）
第3号

発行日
2月6日（土）

発行
野球部スタッフ一同

編集者
宮井　一真

部活動目的
～魅力的な大人になる～

所在地
神戸市北区唐櫃台
2丁目41番1号

電話番号
078（981）0131

選抜出場校決定

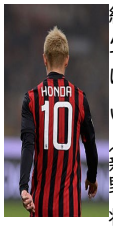
1月29日（金）、選考委員会の決定により、第93回選抜高等学校野球大会の出場校が決定した。総数は32校。兵庫県からは、近畿地区代表として神戸国際大付属、2一世紀枠代表として東播磨の2校が出場する。

さて、君たちが中学生の頃、高校生になったら甲子園でプレーすることを目標にしていたのではないか。甲子園に出場するには春・夏2回のチャンスがあり、高校3年間で、計5回の可能性がある。確認程度に書いておくが、夏は一発勝負のトーナメント戦により代表校が決定する。では、春は？春は、新チームスタート直後の秋季大会の勝ち上がり方により決定する。近畿地区代表6校の枠に加えて、2一世紀枠4校の中から選ばれれば良い。

近畿地区代表に選ばれるには、神戸地区を勝ち進み、県大会で3位以内、近畿大会でベスト4まで勝ち上がることができれば確実に出場できる。ここまで勝ち上がるには、現実的に今の段階では、厳しいと思う。では2一世紀枠ならどうか。こちらの方が可能性が高い。条件としては、兵庫県ベスト32以上の成績を安定して継続することに加え、他校の模範になることや困難条件の克服などがある。この条件を満たせば出場の可能性があるということだ。自分たちのチームで出場できれば良いが、自分たちの頑張りを後輩がつないでくれれば、出場の可能性が上がる。冬季練習も終盤に差し掛かる。春、勝つためにもうひと踏ん張り。

Keisuke Honda

本田圭佑（以下本田）は多くの人が知っているサッカー選手だと思う。元日本代表で、数々の名言を残していることでも有名であり、日本代表でなくなった現在でも世界中のクラブを渡りながら現役を続けている。また、カンボジア代表GM（実質上の監督）やクラブ経営など、多岐にわたり活躍している。今回は、本田が2013年にイタリアのACミランに移籍した時の話をしたい。ACミランは、インテル、ユヴェントスとともにイタリアー部リーグであるセリエAのビック3といわれている。イタリアだけでなく、世界的にも有名なクラブである。本田はそのクラブで日本人初の背番号10番をつけていた。サッカーで10番といえばチームで一番サッカーが上手い選手がつけるとされている番号であり、10番をつけることは本人たっての希望であるという。入団会見で「自分の中のリトル本田に聞いてみた。」等の名言を言っているが、私が一番印象に残っているのは入団会見後の囲み取材のときである。記者から「ACミランの10番をつけるプレッシャーはありますか。」と質問されたとき、本田は「みなさんに逆に質問したいのは10番をつけるチャンスが目の前にあって違う番号を選びますか。僕はそのチャンスが目の前にあるなら、喜んで自分から要求しました。その時に選ぶプレッシャーのことは何も考えなかったです。」と答えた。◆高校生の君たちに、これほどの気持ちをもって取り組める人はどのくらいいるだろうか。高校生の君たちでも活躍できるチャンスは多くある。そのチャンスをチャンスだと思わずに見過ごしていないだろうか。学校生活でも部活動でも与えられるのを待つのではなく、活躍できるチャンスを自らつかもうとする意識を持って何事にも取り組んでほしい。（新野　将司）



様々なことに疑問を

今まで自分がしてもらってきたことは当たり前ではない。学校に毎日登校していること、授業を受けていること、野球をしていること等、全て当たり前ではない。そこに気付いてほしいと思う。おそらく「～している」ではなく、「～させてもらっている（させられている）」になっているのではないか。これでは、せっかく誰かが企画してくれているのに、その思いを受け取れない。「なんで？」、この疑問があれば、もしかしたら誰かの思いに気付けるかもしれない。今まで何気なくしてきたこと、させてもらってきたことにこれからは、「なんで？」という疑問を抱けるようになれば、自分がしていることの意味を理解できるようになるかもしれない。（宮井　一真）

なぜ笑うんだい？

サッカーに詳しくないが、クリスティアノ・ロナルドの名前は知っている。数々の得点記録を打ち立てた当初一、二を争うポルトガル出身のスーパースター。知っているのは実はそのくらいだけど。◆先日決勝が行われた全国高校サッカーで、そのスーパースターのかつての振る舞いが話題になった。テレビでご覧になった方もあるだろう。◆優勝した山梨学院のある選手の、小学生のころの話である。何かのイベントで来日したロナルド選手と対面することになった。当時の映像を見ると－。◆男の子が懸命に練習したポルトガル語で「いつか一緒にプレーしたいです」と伝えているのだが、緊張のせいか、うまく言葉がつながらない。自然周囲からの笑い声が起こった。◆そのとき、ロナルド選手がちょっと怒ったような顔になり、こう言ったのだ。「なぜ笑うんだい？彼のポルトガル語は上手だよ。すごいことだよ。ポルトガル語で準備してきて」。その一言で魔法のように笑いは消え、代わりに拍手が…。◆テレビを見ながら、もし自分がその場にいたら、と考える。悪気はないとはいえ、恥ずかしながら一緒に笑っていたかもしれない。一生懸命な人をどうして笑う？君だって笑われたら悲しいだろう？ロナルド選手にピシャリと叱られたような気がして、一人うつむいた。◆ロナルド選手のことを書いた本を読んで、知った話がある。大西洋のマデイラ島出身で、12歳のとき、サッカーのために首都リスボンに移り住んだ。島の言葉遣いがおかしいと、クラスメートに笑われたことがあったらしい。彼は怒鳴ったという。「笑うなー」◆一生懸命を笑わない。

（2021年2月4日神戸新聞朝刊より）（福本　友貴）

先憂後楽（せんゆうこうらく）

「先憂後楽」この言葉は、常に民に先立って国のことを心配し、民が楽しんだ後に自分が楽しむこと。北宋の忠臣（ちゅうしん：忠義を尽くす家来）の范仲淹（はんちゅうえん：中国の北宋の政治家）が為政者（いせいしゃ：政治を行う者）の心得を述べた言葉。上に立った時に常に周りの人の事を心配し、周りが楽しんだ後に自分が楽しみましょうということです。もう一つの意味で先に苦労・苦難を体験した者は、後に安楽になれるということです。◆今では時に休養し、遊ぶことが大切だと言う風潮ですが、そのような時でも全く遊びに心を許してしまわず、心は常に先憂ということでなくてはならないと思います。言い換えれば、人よりも先に考え、発言し、行動することだと思います。お互いに傷の舐め合いをして、気持ち良くなって、何も感じない毎日を送るのか、それとも人の為に本気で悩み、こうでもない、ああでもないと考えれる毎日を送るのか。自分に問いかけてみて下さい。◆最後に、俺が俺がという「我（エゴ）」が出てしまうような「利己心（自分の利益を考えて、他人の事は考えないこと）の強い人」にならず、共に無心（わだかまりがなく、邪念がないこと）の心になりましょう。（木村　建斗）

宮井のつぶやき

変化を恐れずに◆今まで自分自身で変わりたいと思ったことはある？◆このままではいけない、変わりたい。私は中学校3年生の頃に初めて思った。中学校3年生の最後の総体、1回戦、2回戦に勝利し、3回戦の前日に球技大会があった。他の学年は6限まで授業をしているが、球技大会は午前中で終了したので、部活動の時間まで一時帰宅を命じられた。昼食を済ませ、部活動開始まで時間を潰そうと思っていたが、睡魔が襲ってきた。そのまま眠ってしまい、目が覚めたときには、部活動開始の時間をとうに過ぎていた。人生初の寝坊である。君たちに大切なのは、失敗の後と伝えているが、当時の私はその失敗から逃げた。無断欠席を選択したのである。翌日、当然顧問の先生からは大激怒。チームメイトからも呆れられる始末。覚えている限り、初めて自分の課題と向き合おうと思った瞬間だと自覚している。◆誰かに「変われ」と言われても、自分自身が「変わりたい」と思わない限り変われないと私は思う。なぜ変わりたいと思うのか。自分の課題と向き合い、このままではだめだと考えるからではないのか。◆変わらない方が楽である。だって何もしなくても良いのだから。だが本当にそのままで良いのか。プロ野球選手でさえ、昨年良い成績を収めても、現状に満足することなくフォーム改善、新球種の取得等、変化を求める。変わることは怖い。失敗を想像してしまうから。現状維持は後退。変化を恐れずに、勇気を出して一歩でも前へ。

校歌

市土の森なる
松高く
峠山峡の水澄みて
唐櫃の丘に
そびえ立つ
我が学び舎に
栄あれ
ああ、我らが
神戸北高校

校訓

実　親　規　誠
践　愛　律　実